

自分の考えを整理・深化させる活動の工夫

自他の思考を深める「共有」場面の効果的な位置付けの工夫

「書くこと」の指導は、教師が児童の作品を添削し、できた作品を発表して終わってしまうということが多くあります。ここでは、「書くこと」における「共有」段階を単元終末だけでなく、「構成」「記述」後にも設定し、自他の表現を比べ、そのよさを認め合うことで、自力で書くための思考を深めることを目指します。

課題設定

子どもたちの調べたい・書きたいという思いを高めるために実際に和菓子職人を呼び、作る様子を見学させました。「和」の文化の中から自分が調べたいテーマを決めました。

取材

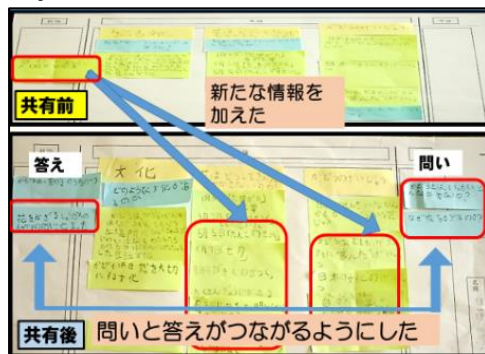
自分が調べたい「和」の文化について各自本や資料等で調べました。

構成

付箋紙に書いた中から材料を選び、構成メモを作りました。

共有

作った構成メモを共有場面で友達とアドバイスし合いました。



- 「文章の展開」は工夫されているか？
- 文章の配列やつながりは適切か？

話し合いの視点

共有前と共有後の構成メモ

ポイント！

「構成」段階後の「共有」ではどんな視点で話合えばいいか明らかにし、互いの作品について視点に基づいて助言することができました。

記述

共有後のアドバイスをもとに、記述しました。

共有

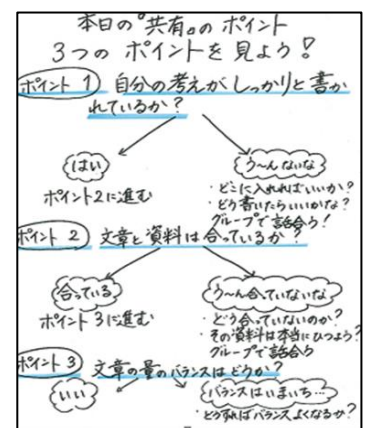
記述した文章を、再び「共有」し、友達とアドバイスし合いました。さらに、新たな書き方を見付け、「書きワザシート」に価値付けしました。(本授業案)

推敲

「書きワザシート」をもとに、自分の文章の過不足部分を修正しました。

共有

「福田『和』の博物館」を開き、4年生を招待しました。和の文化について書いた紹介文を読んでもらい、書き方のよさを確認し合いました。



「共有」で使用したチャート表

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善のポイント

「共有」段階では、視点に基づきグループで話し合うことで児童は自他の「書き方」のよさに気付くことができます。それを、学級全体で価値付けをしていくことで、よりよい「書き方」を自覚できるようになります。自力で書ける児童を育成するために、「共有」は有効な手だてと言えます。